

おお大勝利

平成 25 年度山東サッカー部報第 11 号 (7 月 5 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

3年有終の美 Y2A前期最終節勝利

6月29日(土)Y2Aリーグ第七節の鶴岡東戦が鶴岡東サッカー場にて行われました。山東は県総体初戦で無念の敗北を喫しましたが、例年のようにそこで3年生が引退するのではなく、県リーグの一巡目(前期)終了までは残ろう、というか、**前期優勝を目指そう**と呼びかけてきたため、3年生はしっかり残ってくれました。その間、公式戦がなく、練習試合を行ったりテスト休みをはさんだりしましたが、約一カ月この第七節鶴岡東戦に照準を合わせてきました。**6月1日県総体初戦敗戦後、山形に帰ってきた際に名和トレーナーが、「君たちに負けて終わりは似合わない、勝って終わろう」と3年生を激励してくださいました。**その言葉を聞いた時、敗戦に打ちひしがれてはいましたが、私の胸に6月29日の重みはずっしりとのしかかってきました。「県総体では、至らない監督の下、3年生に初戦敗退という憂き目に会わせたわけだが、これで最終戦に負けたら、最悪の引退のさせ方を迎えさせてしまう・・・あまりよく考えてなかったが、これは大変な課題だ」。そして相手は鶴岡東。今季Y2Aでは勝ち星に恵まれていませんが、古豪であり昨年の県新人の優勝チーム、そして、県総体では優勝した山形中央に二回戦でPK合戦までもつれ込む接戦を演じたチーム。簡単な勝負のわけがない。よって、選手には、というか甘くなりがちな自分自身への自戒を込めながら、「県総体が終わり、『あとは単に残りの期間サッカーをエンジョイする』とだけではないように。**サッカーを楽しむことはサッカー選手として当然のことだが、最後まで上手くなることを目指し、最後の試合に最高のパフォーマンスが発揮できるよう取り組もう**」と呼びかけて来ました。

さあ試合当日。大型バスで鶴岡に向かう。3年生に故障を抱えた選手もいますが、この試合に合わせて来てくれる。県総体の反省をふまえ、ポジションやメンバーを入れ替えながら、試合に臨む。試合には、**清野OB会長、後藤報道局長、そして佐竹校長**がいらして、3年生の最後を見届けてくださる。**保護者の方々も、3年生の保護者を中心に、山東のホームの雰囲気を作ってください**。そして選手の応援は、美声の応援団長リンがまとめ上げる。うだる暑さのなか、土煙が舞う鶴岡東サッカー場で正午過ぎにキックオフ。

試合の入り、山東悪くない。一方的というわけではなく、一進一退ではありますが、落ち着いた試合の入り。県総体で落ち着かない70分を過ごし、落ち着かないまま試合が終わってしまった反省を踏まえた戦い。**成長が見える**。というか、もともとこういう戦いが6月頭の段階でできたはずで、県総体では監督が上手く導くことができなかつただけなのですが、ともかくも、**県総体の反省を踏まえ、攻め急ぎをしないように、選手が落ち着こう落ち着こうとしている(そしてそういう声掛けをピッチ内でしている)**。期待をもって眺めていましたが・・・先制は鶴岡東。山東ゴール前に(斜めや横からではなく)直線的に蹴り上げら

れたロビングボールを、前に飛び出しDFと交錯したGKがパンチし損ね、こぼれたボールを、無人のゴールにシュートされ、先制を許す。このシーン、斎藤GKコーチの解説によると、「積極的に前に飛び出したGKの決断は良いのだが、普段から前に出て声を掛けGKとDFでうまく連携してプレーしていないので、GKの声にDFが上手く反応してくれなかった」とのこと。私の目からすると、ボールが低い割に相手選手が近くにいなかったため、キャッチしに行ってもよかったのでは、と見えました(ケツンよ、君にはもう一年あるので、今後の向上に期待し、しっかり書かせてもらったよ)。ともかく、この大事な試合で、あっけなく先制点を献上してしまう。しかし「3年生引退試合」、あきらめている場合じゃない。選手たちは声を掛け合い、切り替えようとしていました。**この自主的な、積極的な姿勢が、その後の得点をもたらす!** まず、CKからのこぼれ球をウスバが右足を振りぬき、きれいに逆サイドのネットに収まるファインシュートで同点。次は、クリロンの強烈な右足ミドルシュートのこぼれ球を「我らがフィニッシャー」コテッチャンが得意の「ゴツァン」。前半のうちに立ちどころに逆転に成功。FW・MF・DFの縦のラインのプレーに安定感が見られる。しかし、その後、個の力ある鶴東の選手にドリブルなどでぐいぐいゴール前に迫られ、アンラッキーなオウンゴールを許し、同点にされ、ハーフタイムを迎える。

ハーフタイム、ベンチでは「押し気味に試合を進めておきながら、この二失点はもったいなかったな〜」という気持ちを押し殺しながら、「先制され悪い流れになりながらも、後半同点のままスタートできるのは悪くないぞ」と選手を、そして、悔しい気持ちで過去を振り返ってしまう自分を、鼓舞する。後半は、前半から好調だったリクの動きが更にキレを増し、止められなくなってくる。右サイドで二人をぶち抜き、やさしいセンターリング。それをカットが苦手な右足でしっかり決め、再逆転。そして、リクを無理に止めようとした相手選手が2枚目のイエローで退場。2年4組担任のI先生の旦那(長井高校監督)が適切なジャッジで鶴東を10人に追い込む。その後は、散発的に鶴東にゴールに迫られ、それはそれで危ないシーンは作られながらも(鶴東のアタッカーはやはり力がある!),押し込む時間が圧倒的に長くなる。右サイドで得たFKを、ウスバが詰めて、4対2、ウスバ2点目(いや3点目ですね〜フフ)。浮かさずグラウンダーでゴール前にボールを供給したクリロンの判断が光りました。**いつも通りの・相手も予想するプレーをするだけでなく、ピッチ上での選手の自由な判断に基づくこういうプレーが、山東の課題であった(山東に求められるものだった)ことを、この成功例から改めて感じる。**その後も攻め立てますが、スコアは動かず。最後に、**サッカーへの前向きな気持ちと笑顔で誰からも好かれたグランドマネージャーのイギー**たちがピッチに立ち、ボールを最後まで追って、試合終了の笛。

苦しい、重圧のかかる、試合でしたが、何とか、何とか勝利することができました。そして、3年生が勝利で終わることができました。最後の解散のミーティングでは、斎藤GKコーチが、「**全国大会に出ても負けて終わる中、君たちは勝って終わった。これは誇っていいことだ**」というような、ある強豪高校のM顧問の入れ知恵で私が言おうとしていたことを先に言ってしまいましたが、確かにそう。勝って終われて3年生の諸君、本当に良かったね!ただ、解散時に言ったように、**この試合に仮に負けていたとしても「リーグ戦一巡目まで残る」伝統を作ってくれた功績は残り続けることでしょう。そして、最後までレベルアップを目指した真摯な姿は後輩諸君の記憶に残ることでしょう。**いままで本当にお疲れ様。

さて、感慨にふける暇も許さず、時節が迫っております。ともに、新チームで臨む両チーム、**野球の前にはまずサッカーが先鞭をつけます。**応援よろしくお願ひします。

7月6日(土) Y2A第8節 VS 山形南 @山形中央G 10:00~